高杉製薬株式会社
TAKASUGI SEIYAKU

安全データシート

作成日：2015/03/01
改訂日：2025/04/01

1. 製品及び会社情報

製品名※1：　工業用49．0 %メタノール ～ 工業用58．9 %メタノール
49．0 %メタノール ～ 58．9 %メタノール

※1：製品名の末尾に納入先の社名、(UN)（封緘紙）を付したものを含みます。
なお、製品保証濃度には幅があり、製品名に表示する濃度と同一ではありません。
当SDSは製品保証濃度の上限値の内容です。
製品濃度の上限値は、3項「組成・成分情報」に示しています。

会社名：　高杉製薬株式会社

住所：　福岡県糟屋郡粕屋町仲原2617

電話番号：　092-621-1231

FAX番号：　092-621-6269

推奨用途：　一般工業用途、有機溶剤

使用上の制限：　推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類：
引火性液体：区分2　＜H225＞
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：区分2A　＜H319＞
生殖毒性：区分1B　＜H360＞
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分1(中枢神経系、視覚器、全身毒性)　＜H370＞
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分3(麻酔作用)　＜H336＞
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分1(中枢神経系、視覚器)　＜H372＞

GHSラベル要素：
絵表示又はシンボル：

注意喚起語：　危険

危険有害性情報：
H225 引火性の高い液体及び蒸気
H319 強い眼刺激
H336 眠気又はめまいのおそれ
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H370 視覚器、全身毒性、中枢神経系の障害
H372 長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系，視覚器の障害

注意書き：

［安全対策］
P202 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。＜H360＞
P210 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。＜H225＞
P233 容器を密閉しておくこと。＜H225＞
P240 容器を接地しアースをとること。＜H225＞
P241 防爆型の【電気/換気/照明】機器を使用すること。＜H225＞
P242 火花を発生させない工具を使用すること。＜H225＞
P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。＜H225＞
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。＜H370，H372＞
P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。＜H336＞
P264 取扱い後は手、顔などをよく洗うこと。＜H319，H370，H372＞
P270 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。＜H370，H372＞
P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。＜H336＞
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。＜H225，H319，H360＞

[応急措置] P303+P361+P353 皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水【又はシャワー】で洗うこと。＜H225＞
P304+P340 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。＜H336＞
P305+P351+P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。＜H319＞
P308+P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。＜H370＞
P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診察/手当てを受けること。＜H360＞
P312 気分が悪い時は医師に連絡すること。＜H336＞
P314 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。＜H372＞
P337+P313 眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。＜H319＞
P370+P378 火災の場合:消火をするために適切な消火剤を使用すること。＜H225＞

[保管] P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。＜H336＞
P403+P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。＜H225＞
P405 施錠して保管すること。＜H336, H360, H370＞

[廃棄] P501 内容物/容器を国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。＜H225, H336, H360, H370, H372＞

他の危険有害性: 情報なし

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分:	混合物(水溶液)	
化学名又は一般名:	メタノール	
別名:	メチルアルコール、木精	
濃度又は濃度範囲※2:	50.00 % ≦ メタノール ＜ 60.00 %	40.00 % ＜ 水 ≦ 50.00 %
化学式又は構造式:	CH_3OH	H_2O
分子量:	32.04	18.02
CAS 登録番号(CAS RN®):	67-56-1	7732-18-5
官報公示整理番号:	化審法 (2)-201/安衛法 既存	該当しない
危険有害成分:	メタノール	

※2:濃度範囲は製品保証濃度の「上限値」を採用しております。製品保証濃度は品質規格書を参照ください。

4. 応急措置

吸入した場合: 医師に連絡すること。
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合: 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
医師に連絡すること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。
医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状
- 吸入: 咳、めまい、頭痛、吐き気、脱力感、視力障害
- 皮膚: 皮膚の乾燥、発赤
- 眼: 発赤、痛み
- 経口摂取: 腹痛、息切れ、嘔吐、痙攣、意識喪失、咳、めまい、頭痛、吐き気、脱力感、視力障害

最も重要な兆候及び症状: 眼、皮膚、気道を刺激する。
意識を喪失することがある。
失明することがあり、場合によっては死に至る。
持続性あるいは反復性の頭痛、視力障害を生じることがある。

応急措置をする者の保護: データなし

医師に対する特別注意事項: ばく露の程度によっては、定期健診が必要である。

5. 火災時の措置

消火剤:	水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤:	棒状放水
特有危険有害性:	加熱により容器が爆発するおそれがある。 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 消火後再び発火するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護:	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	吸入や接触により皮膚や眼に刺激や炎症を起こすおそれがある。 蒸気は皮膚からも吸収されて、有害作用(頭痛、視力障害、不眠症等)を及ぼす。 全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項:	環境中に放出してはならない。
回収、中和:	不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
封じ込め及び浄化方法及び機材:	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策:	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項:	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 消防法の規制に従う。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込まないこと。 皮膚と接触しないこと。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 眼に入れないこと。
接触回避:	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	
技術的対策:	消防法の規制に従う。
混触危険物質:	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件:	消防法の規制に従う。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料:	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:	200 ppm
許容濃度	
日本産業衛生学会勧告値(2009年版):	200 ppm(260 mg/m^3)(皮膚吸収)
米国産業衛生専門家会議(ACGIH)(2009年):	TLV-TWA 200 ppm 、 TLV-STEL 250 ppm
設備対策:	消防法の規制に従う。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、装置の密封又は防爆タイプの局所排気設備を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具:	適切な呼吸器保護具を着用すること。 (有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器) 換気が十分でない場合には、指定された呼吸器用の保護具を着用すること。
手の保護具:	適切な保護手袋を着用すること。(不浸透性のもの)
眼の保護具:	適切な眼の保護具を着用すること。(不浸透性のもの) (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具:	適切な保護衣を着用すること。(不浸透性のもの) (静電気防止対策用保護衣、保護面、安全靴等) 保護具は保護点検表により定期的に点検すること。
衛生対策:	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状:	液体
色:	無色透明
臭い:	特異臭
臭いのしきい(閾)値:	データなし
pH:	データなし
融点・凝固点:	-97.83 ℃(100 %)
沸点、初留点及び沸騰範囲:	76℃(50%)
引火点:	21 ℃～ 23 ℃(密閉式)
蒸発速度(酢酸ブチル=1):	情報なし
燃焼性(固体、気体):	情報なし
燃焼又は爆発範囲:	5.5 vol%～ 44 vol%(空気中)
蒸気圧:	9.5 mmHg(20 ℃)(100 %)
蒸気密度:	1.11(空気 = 1)(100 %)
比重(15/4℃):	0.9185(50.0 %)、0.9084(55.0 %)
溶解度:	水と混和
n-オクタノール/水分配係数:	log Pow = -0.82～-0.66
自然発火温度:	464 ℃(100 %)
分解温度:	データなし
粘度(粘性率):	データなし
粒子特性:	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性:	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性:	この物質の蒸気と空気はよく混合し、爆発性混合物を生成しやすい。 酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 過酸化水素と混触したものは、衝撃により爆発する。
避けるべき条件:	データなし
混触危険物質:	酸化剤、過酸化水素
危険有害な分解生成物:	加熱分解により一酸化炭素、ホルムアルデヒドを生じる。

11. 有害性情報

急性毒性(経口):	区分4:CAS RN®:67-56-1(毒性値=1400mg/kg 含有率=59.99% 出典:NITE) 区分に該当しない:CAS RN®:7732-18-5(毒性値=100000mg/kg 含有率=40.01% 出典:NITE) ATEmix=100 / ((59.99% / 1400mg/kg) + (40.01% / 100000mg/kg))計算結果が2312.1333824mg/kgのため、区分5に該当。 対象国危険有害性区分補正処理により区分5から区分に該当しないに変更。
急性毒性(経皮):	区分に該当しない:CAS RN®:67-56-1(毒性値=15800mg/kg 含有率=59.99% 出典:NITE) 区分に該当しない(分類対象外):CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE) ATEmix=100 / (59.99% / 15800mg/kg)計算結果が26337.7229538mg/kgのため、区分に該当しないに該当。
急性毒性(吸入;気体):	GHSの定義における液体である。 区分に該当しない(分類対象外):CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE), CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE) GHS定義による気体ではない。

急性毒性(吸入;蒸気):
ppmとmg/lで計算を行うが、判定結果はppmを採用。
急性毒性(吸入):蒸気:ppmでの計算
区分に該当しない:CAS RN®:67-56-1(毒性値=22500ppm 含有率=59.99% 出典:NITE)
区分に該当しない(分類対象外):CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
ATEmix=100 / (59.99% / 22500ppm)計算結果が37506.2510418ppmのため、区分5に該当。
対象国危険有害性区分補正処理により区分5から区分に該当しないに変更。
急性毒性(吸入):蒸気:mg/lでの計算
区分に該当しない:CAS RN®:67-56-1(変換値=25mg/l 含有率=59.99% 出典:NITE)
区分に該当しない(分類対象外):CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
ATEmix=100 / (59.99% / 25mg/l)計算結果が41.6736123mg/lのため、区分5に該当。

急性毒性(吸入;粉じん、ミスト):
区分に該当しない(分類対象外):CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
分類できない:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE)
既知の成分がすべて区分に該当しない(分類対象外)のため、区分に該当しない(分類対象外)に該当。
毒性が未知の成分を59.99%含有。
毒性未知成分が0.1%以上なので、区分に該当しない(分類対象外)から分類できないに変更。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性:
ウサギに20時間閉塞適用の試験で刺激性がみられなかった〔DFGOTvol.16 (2001)〕とする未発表データの報告はあるが、皮膚刺激性試験データがなく分類できない。なお、ウサギに24時間閉塞適用後、中等度の刺激性ありとする報告もあるがメタノールによる脱脂作用の影響と推測されている〔DFGOTvol.16 (2001)〕。
区分に該当しない(分類対象外):CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
分類できない:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE)
既知の成分がすべて区分に該当しない(分類対象外)のため、区分に該当しない(分類対象外)に該当。
毒性が未知の成分を59.99%含有。
毒性未知成分が0.1%以上なので、区分に該当しない(分類対象外)から分類できないに変更。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:
ウサギを用いたDraize試験で、適用後24時間、48時間、72時間において結膜炎は平均スコア(2.1)が2以上であり、4時間まで結膜浮腫が見られた(スコア2.00)が72時間で著しく改善(スコア0.50)した(EHC 196 (1997))。しかし、7日以内に回復しているかどうか不明なため、細区分せず区分2とした。
区分2:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE)
区分に該当しない:CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
加成方式が適用できる成分からの判定:
眼区分2の成分合計が59.99%であり、濃度限界(10%)以上のため、区分2に該当。
危険有害性情報:H319 強い眼刺激

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:
区分に該当しない:CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
分類できない:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE)
危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。
毒性が未知の成分を59.99%含有。
毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

皮膚感作性:
区分に該当しない:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE), CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。

生殖細胞変異原性(変異原性):
マウスリンフォーマ試験の代謝活性化(S9+)のみで陽性結果〔EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)〕はあるが、その他Ames試験〔EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)、PATTY (5th, 2001)〕やマウスリンフォーマ試験〔EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)〕やCHO細胞を用いた染色体異常試験〔DFGOT vol.16 (2001) 〕などin vitro変異原性試験では陰性であった。
区分に該当しない:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE), CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。

発がん性:
新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)による未発表報告ではラット・マウス・サルの試験で発がん性なしとしている〔EHC 196 (1997)〕。また、ラットを用いた8週齢より自然死するまで飲水投与した試験で、雌雄に頭部と頸部のがん及び雌に血液リンパ網内系腫瘍の発生が有意かつ用量依存的に増加したと報告されている(ACGIH(2009))。しかし腫瘍の判定が標準的方法と異なり、動物の自然死後に行われていないため、評価あるいは比較が困難と考えられる。以上の相反する情報により分類できない。
区分に該当しない:CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)

分類できない:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE)
危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。
毒性が未知の成分を59.99%含有。
毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

生殖毒性:
妊娠マウスの器官形成期に吸入ばく露した試験において、胎児吸収、脳脱出などが見られ〔PATTY (5th, 2001)〕、さらに別の吸入又は経口ばく露による試験でも口蓋裂を含め、同様の結果が得られている〔EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)〕。
メタノールの生殖への影響に関して、証拠の重みに基づく健康障害としての科学的判断がなされ、ヒトのデータは欠如しているが動物による影響は明確な証拠があることから、ばく露量が十分であればメタノールがヒトの発生に悪影響を及ぼす可能性があると結論されている〔NTP-CERHR Monograph (2003)〕。以上によりヒトに対して発生毒性が疑われる物質とみなされるので区分1Bとした。
区分1B:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE)
区分に該当しない:CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
CAS RN®:67-56-1が59.99%≧0.3%のため、区分1Bに該当。
危険有害性情報:H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

生殖毒性・授乳影響:
データなし:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE), CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露):
ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、血中でのギ酸の蓄積により代謝性アシドーシスに至る。そして視覚障害、失明、頭痛、めまい、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの症状があり、時に死に至ると記述されている(DFGOT vol.16 (2001)、EHC 196 (1997))。また、中枢神経系の障害、とくに振せん麻痺様錐体外路系症状の記載(DFGOT vol.16 (2001))もあり、さらに形態学的変化として脳白質の壊死も報告されている(DFGOT vol.16 (2001))。これらのヒトの情報に基づき区分1(中枢神経系)とした。標的臓器としてさらに、眼に対する障害が特徴的であるので視覚器を、また、代謝性アシドーシスを裏付ける症状として頭痛、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの記載もあるので全身毒性をそれぞれ採用した。一方、マウスおよびラットの吸入ばく露による所見に「麻酔」が記載され(EHC 196 (1997)、PATTY (5th, 2001))、ヒトの急性中毒に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生じていると記述されている(PATTY (5th, 2001))ので、区分3(麻酔作用)とした。
区分3:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 臓器=麻酔作用 出典:NITE)
区分に該当しない:CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
区分1:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 臓器=中枢神経系 出典:NITE), CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 臓器=視覚器 出典:NITE), CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 臓器=全身毒性 出典:NITE)
CAS RN®:67-56-1が59.99%≧10%のため、区分1(中枢神経系)に該当。
区分3(麻酔作用)の成分合計が59.99%であり、濃度限界(20%)以上のため、区分3(麻酔作用)に該当する。
CAS RN®:67-56-1が59.99%≧10%のため、区分1(視覚器)に該当。
CAS RN®:67-56-1が59.99%≧10%のため、区分1(全身毒性)に該当。
危険有害性情報:H370 中枢神経系, 視覚器, 全身毒性の障害、H336 眠気又はめまいのおそれ

特定標的臓器毒性(反復ばく露):
ヒトの低濃度メタノールの長期ばく露の顕著な症状は広範な眼に対する障害だったとする記述〔EHC 196 (1997)〕や職業上のメタノールばく露による慢性毒性影響として、失明がみられたとの記述〔ACGIH (7th, 2001)〕から区分1(視覚器)とした。また、メタノール蒸気に繰り返しばく露することによる慢性毒性症例に頭痛、めまい、不眠症、胃障害が現れたとの記述〔ACGIH (7th, 2001)〕から、区分1(中枢神経系)とした。なお、ラットを用いた経口投与試験で肝臓重量変化や肝細胞肥大〔PATTY (5th,2001)、IRIS (2005)〕などの報告があるが適応性変化と思われ採用しなかった。
区分に該当しない:CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
区分1:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 臓器=中枢神経系 出典:NITE), CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 臓器=視覚器 出典:NITE)
CAS RN®:67-56-1が59.99%≧10%のため、区分1(中枢神経系)に該当。
CAS RN®:67-56-1が59.99%≧10%のため、区分1(視覚器)に該当。
危険有害性情報:H372 長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系, 視覚器の障害

誤えん有害性:
動粘性率:不明
区分に該当しない(分類対象外):CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE)
分類できない:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE)
動粘性率が不明のため、分類できないに該当。

12. 環境影響情報

水生環境有害性については、GHSのルールに従い下記、方式1、方式2、方式3の3種類の方法で計算し、その中で一番安全サイドのものを採用する。全ての成分にデータ又は情報が全く無い、又は評価をするのに不十分な場合は「分類できない」とする。
方式1:3つの栄養段階(魚類、甲殻類、藻類)ごとに区分を求める。※3つの栄養段階(魚類、甲殻類、藻類)の毒性値データがそろう成分が2つ以上の際に実施。
方式2:成分それぞれで3つの栄養段階のうち、成分ごとに1番強い毒性値を採用し、加算式で区分を求める。毒性値はないが区分がある成分と、加算式で求めた区分から加算法を用いて混合物の区分を求める。
方式3:加算法のみにより混合物の区分を求める。

生態毒性

水生環境有害性(急性):	区分に該当しない:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 毒性値(魚類)=15400mg/l 毒性値(甲殻類)=1340mg/l 毒性値(藻類)=なし 出典:NITE), CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 毒性値(魚類)=なし 毒性値(甲殻類)=なし 毒性値(藻類)=なし 出典:NITE) 方式3:加算法 (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が0%であり、濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しないに該当。 方式1=分類できない、方式2=分類できない、方式3=区分に該当しないより区分に該当しないに該当。
水生環境有害性(長期間):	区分に該当しない:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 毒性値(魚類)=なし 毒性値(甲殻類)=なし 毒性値(藻類)=なし 急速分解性=不明 出典:NITE), CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 毒性値(魚類)=なし 毒性値(甲殻類)=なし 毒性値(藻類)=なし 急速分解性=無 出典:NITE) 方式3:加算法 (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が0%であり、濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しないに該当。 方式1=分類できない、方式2=分類できない、方式3=区分に該当しないより区分に該当しないに該当。
残留性/分解性:	情報なし
生体蓄積性:	情報なし
土壌中の移動性:	情報なし
オゾン層破壊物質:	当該物質はモントリオール議定書の附属書に記載されていない。 分類できない:CAS RN®:67-56-1(含有率=59.99% 出典:NITE), CAS RN®:7732-18-5(含有率=40.01% 出典:NITE) データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:	都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。 少量の場合はおがくず、ウエス等に吸収させて開放型の焼却炉で焼却する。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装:	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

〔海上規制情報〕	IMOの規定に従う。
UN No.:	1230
Proper Shipping Name:	METHANOL
Class:	3
Packing Group:	Ⅱ
Marine Pollutant:	Not Applicable
〔航空規制情報〕	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.:	1230
Proper Shipping Name:	METHANOL
Class:	3
Packing Group:	Ⅱ

国内規制

〔陸上規制情報〕	消防法、道路法に従った容器、積載方法で輸送する。
〔海上規制情報〕	船舶安全法に従った容器、積載方法で輸送する。
国連番号:	1230
品名:	メタノール
クラス:	3(引火性液体類)
容器等級:	Ⅱ

海洋汚染物質:	非該当
〔航空規制情報〕	航空法に従った容器、積載方法で輸送する。
国連番号:	1230
品名:	メタノール
クラス:	3(引火性液体類)
容器等級 :	Ⅱ
特別な安全対策:	移送時にイエローカードの携行が必要である。 漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号:	131

15. 適用法令

労働安全衛生法:	名称等を表示すべき危険物及び有害物 名称等を通知すべき危険物及び有害物 作業環境評価基準 危険物・引火性の物 第2種有機溶剤等 皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質
労働基準法:	疾病化学物質
毒物及び劇物取締法:	該当しない
消防法:	該当しない
大気汚染防止法:	特定物質 揮発性有機化合物
土壌汚染対策法:	該当しない
水質汚濁防止法:	該当しない
海洋汚染防止法:	有害液体物質(Y類物質) 危険物(引火性の物質)
特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律:	該当しない
船舶安全法:	引火性液体類
港則法:	その他の危険物・引火性液体類
航空法:	引火性液体
道路法:	車両の通行の制限
化学物質管理促進法(PRTR法):	該当しない
悪臭防止法:	該当しない
外国為替及び外国貿易法:	輸出貿易管理令別表第1の16の項 【HS2905.11】 輸出貿易管理令別表第2(輸出の承認) 輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」
特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法):	特定有害廃棄物

16. その他の情報

参考文献:

1. 製品安全データシート;メタノール(安全衛生情報センター)
2. NITE-Gmiccs(Ver.2.0.10)収載化学物質一覧(20220915更新版)
3. 国際化学物質安全性カード;メタノール(ICSC)
4. The Merck Index 14th Ed.
5. 化学品法規制検索システム 日本ケミカルデータベース(株)
6. GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報 厚生労働省
   http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx
7. 濃度等の異なる危険物の性質に関する検証(東京消防庁)

改訂情報:
旧版(2024年5月1日付)からの改訂は以下の通り。
1.「15.適用法令」各法における該当条項の記載を削除した。
2.「15.適用法令」から化審法を削除した。

この安全データシートは、各種の文献等に基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありません。また、作成の時点においての知見によるものです。注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な条件下で使用する場合は、その環境に応じて安全対策を講じてください。含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証もするものではありません。